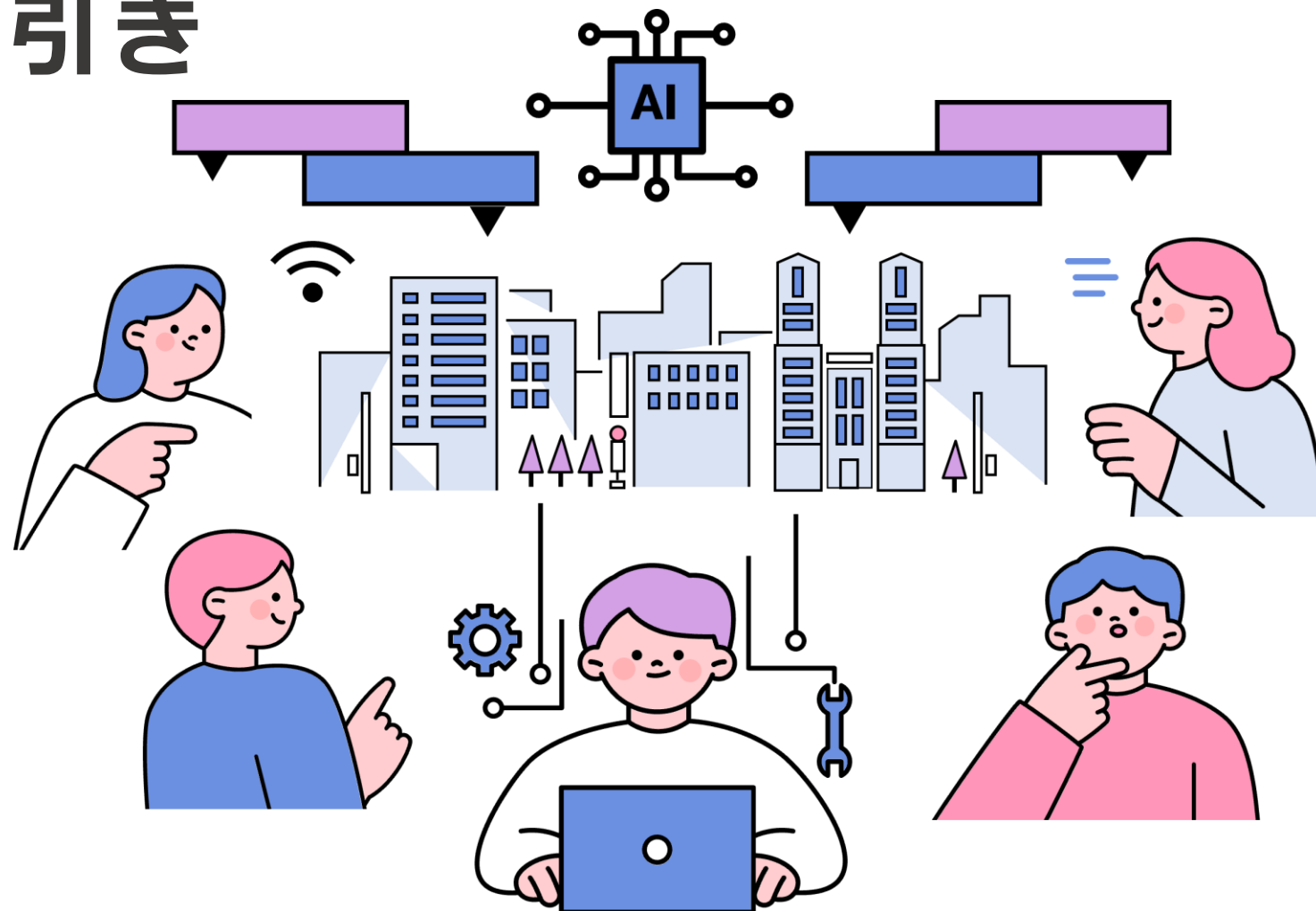


東京都AI導入・活用ガイドラインに基づく

# 生成AI利用の手引き

Version 1.0



令和8年（2026年）3月  
東京都デジタルサービス局

# はじめに

東京都では、「東京都AI戦略」の視点の一つである「都政におけるAI利活用」を推進するため、都庁の各部門が所管事業において生成AIを含むAIを適正かつ効果的に導入・活用していくための実践的な指針として「東京都AI導入・活用ガイドライン」を策定しました。

本書は、各職員がそれぞれの業務の中で生成AIを安全かつ効果的に利用するための対応策を、「東京都AI戦略」と「東京都AI導入・活用ガイドライン」を踏まえてまとめたものです。

生成AIは、都職員の業務のあり方を大きく変革する可能性を秘めている一方、様々なリスクも指摘されています。

このため、生成AIの利用にあたっては、その特性をよく理解し、リスクに適切に対応しながらAIの持つ強みを最大限引き出していくことが重要です。

生成AIを正しく使いこなし、「都民サービスの質向上」と「業務の生産性向上」へとつなげていきましょう。

## 東京都AI戦略

東京都がAIと向き合う際の基本的な考え方や取組の方向性を示す全庁的な方針

視点1: 都政におけるAI利活用

視点2: 多様な主体とのAI利活用促進

## 東京都AI導入・活用ガイドライン

都庁の各部門が、所管事業において生成AIを含むAIを適正かつ効果的に導入・活用していくための実践的な指針

東京都AI導入・活用ガイドラインに基づく

## 生成AI利用の手引き(本書)

各職員がそれぞれの業務の中で生成AIを安全かつ効果的に利用するための対応策をまとめたもの

\* 本手引きは、今後得られた知見などを踏まえ、適宜内容の見直しを行っていく予定です

# 目次

はじめに ..... P. 2

## 1章 生成AIについて

- 1 生成AIの特徴 ..... P. 5
- 2 生成AIの活用可能性とリスク ..... P. 6
- 3 生成AI利用上の留意事項 ..... P. 7
- 4 都における利用環境 ..... P. 8

## 2章 利用時のチェックポイント

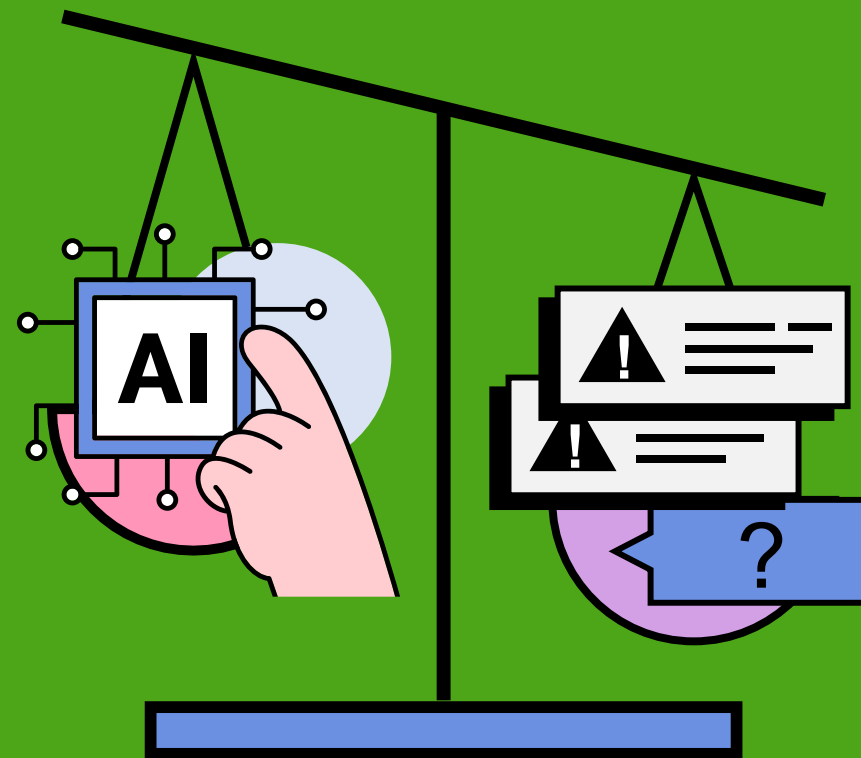
- 1 利用にあたっての約束事 ..... P.10
- 2 利用時のチェックポイント ..... P.11

## 3章 効果的な活用方法

- 1 プロンプトのコツ ..... P.18

# 1章 生成AIについて

1章では、生成AIの概要と、それを業務に利用するために知ってほしいことを紹介します。ぜひ生成AIを利用する前に読んでください。



# 1 生成AIの特徴

生成AIとは、AIに対してプロンプト<sup>※</sup>を与えることで回答を生成することができる人工知能のひとつで、**人間の業務・作業をサポートするツール**として活用が期待されています。

これまではAIがデータを基礎とした結果を予測し、人間が具体的な対応策を生み出してきました。

一方、生成AIは**プロンプトに対するテキスト、画像及び動画などの生成物**を対話形式で応答する点が、これまでのAIとは異なることに注目が集まっています。

※ 指示、命令文のこと



## 2 生成AIの活用可能性とリスク

生成AIの登場、そしてその性能が格段に向上する中、社会の様々な分野において活用が広がる可能性があります。

本書で取り上げる生成AIについても、これを適切かつ効果的に活用することで、**これまでにない形での業務の生産性の向上や、都民サービスの質向上につながる可能性**を秘めており、AI活用に向けた検討や取組を進めていく必要があります。

一方で、生成AIには、**情報漏えいや回答の不正確性、著作権侵害、アンコンシャスバイアス※**など、様々な**問題が指摘**されており、生成AIが生成した**回答の根拠や裏付けを必ず確認することが重要**です。

行政分野での活用にあたっては、こうしたリスクへの対応が必要です。

※ 自分自身は気づいていないものの見方や捉え方のゆがみや偏り



## 3 生成AI利用上の留意事項

「東京都AI戦略」では、AIを利活用する際に留意する必要がある事項として、「**透明性**」「**公平性**」「**安全性**」「**プライバシー**」「**セキュリティ**」「**アカウントビリティ**」を挙げています。

それぞれの事項の具体的な内容は右表のとおりです。

また、AIによる生成物には「**著作権に関するリスク**」（既存の著作物に類似し、意図せず著作権を侵害してしまうリスクや、著作物として保護されないリスク）も存在するため、あわせて適切な対応が必要です。

### 透明性

AIがどのように機能し、なぜ特定の決定や予測に至ったのか理解可能な状態にしておくこと。また、その情報を可能な範囲で公開する等、留意事項への対応が都民へ説明されていること

### 公平性

AIモデルに含まれるバイアス（偏見）によって、特定の個人や集団が不当な差別を受けたり、不利益を被らないようにすること

### 安全性

AIの誤作動や意図しない動作により、人間の生命・身体・財産・精神・環境への危害を加えないようにすること

### プライバシー

AIを使用することによる個人情報の不適切な収集、利用、管理、漏えい、またはプライバシーの侵害が起きないようにすること

### セキュリティ

サイバー攻撃等に備えるとともに、不正操作によってAIの動作に意図せぬ変更や停止が生じないようにすること

### アカウントビリティ

AIが予期せぬ結果や不利益が生じる結果を引き起こした場合に備え、誰が、どのように責任を負うのか明確にしておくこと。また、AIの動作や判断が適切であったかを後から検証できるようにしておくこと

## 4 都における利用環境

インターネット上の公開された環境で生成AIを利用すると、入力内容が学習データとして保存されるなど、情報漏えいにつながるリスクがあります。

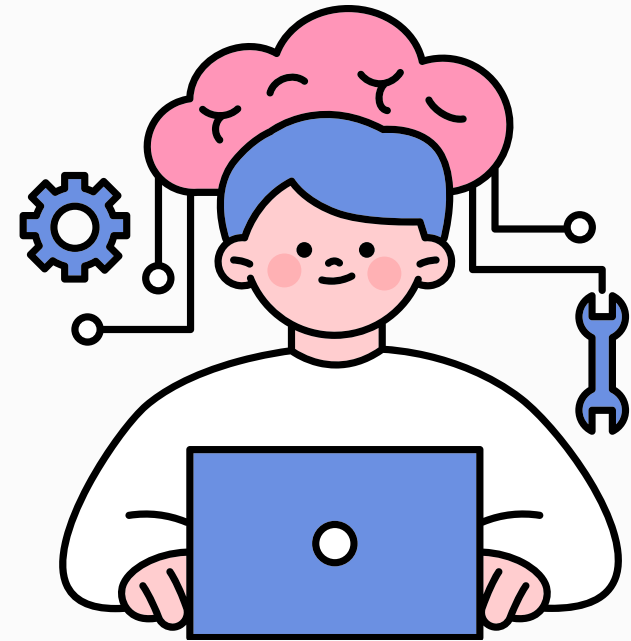
東京都では職員が文章生成AIを業務で活用するための環境として、令和6年4月から「Microsoft Copilot<sup>※1</sup>」、令和7年3月から「Microsoft 365 Copilot<sup>※2</sup>」の利用を開始しました。さらに、令和7年9月に生成AIを活用したアプリケーションの作成を容易にする「生成AIプラットフォーム」を導入しました。

いずれのサービスにおいても、**入力データが学習目的で保存されない**ことを確認しており、データの漏えいリスクを可能な限り低減しています。

なお、その他のAIサービスを導入する場合には、AIワンストップ相談窓口にお問い合わせください。

※1 商用データ保護機能を備えたCopilot。

※2 Microsoft 365 アプリ（TeamsやOutlook、Word、Excel等）上で稼働するCopilot。商用データ保護を備えている。



## 2章 利用時のチェックポイント

2章では、利用時のチェックポイントについて説明します。

生成AIの利用に際しては、この章を必ず参照し、それぞれのチェックポイントを確認しながら、安全に使っていただくようお願いします。



# 1 利用にあたっての約束事

生成AIの利用にあたっては、安全な利用環境の整備に加え、職員の皆さん自身がリスクを理解し、次頁以降に示すチェックポイントを確認した上で利用することが重要です。

まず、次の点を必ず遵守するようにしてください。



**安全性が確保された庁内の共通ツール又は  
許可を受けた外部のツール※で生成AIを利用すること（P.8参照）**

東京都サイバーセキュリティポリシー上、**許可されていない生成AIを業務で利用すること、私物端末上で生成AIを用いて業務を行うことは禁止**されており、違反すると懲戒処分の対象となる場合があります。

令和6年4月から利用を開始したMicrosoft Copilotや、令和7年3月から利用を開始したMicrosoft 365 Copilotには、画像生成の機能があります。このような生成AIによる生成物は、既存の著作物に類似し、意図せず著作権を侵害してしまうリスクや、逆に著作物として保護されないリスクがあります。**生成AIによる生成物のご利用にあたっては、本書15ページに記載されている著作権に関する留意事項を守った上でご利用ください。**

※ デジタルサービス局が提供する共通ツール以外の外部の生成AIサービスについては、許可を受けて利用することが可能です。  
生成AI共通ツール以外のAIサービスを導入する場合には、AIワンストップ相談窓口にお問い合わせください。

## 2 利用時のチェックポイント

生成AIを利用する際のチェックポイントは以下4点です。

※下図の **プライバシー** のタグは、下記4つのチェックポイントそれぞれが本紙P.7に記載した「東京都AI戦略」上の「AI利活用に当たって留意すべき事項」6点及び「東京都AI導入・活用ガイドライン」上の「その他の留意すべき事項【著作権】」のうちどれに該当するかを指し示しています。

チェックポイント

1

個人情報等、機密性の高い情報の取扱いには細心の注意を払うこと

プライバシー

セキュリティ

チェックポイント

2

生成AIが生成した回答等の根拠や裏付けを必ず確認

公平性

安全性

アカウントビリティ

チェックポイント

3

著作権保護の観点から、プロンプト入力内容及び生成物の確認を行うこと

著作権

チェックポイント

4

生成AIの回答を対外的に使用する場合は、その旨、明記

著作権

透明性

※ 本手引きではチェックポイントをわかりやすく4点にまとめていますが、生成AIの取扱いについては一般社団法人日本ディープラーニング協会の生成AIの利用ガイドラインも参考にしてください。

## 個人情報等、機密性の高い情報の取扱いには細心の注意を払うこと

プライバシー

セキュリティ

庁内の生成AI共通ツールである「Microsoft Copilot」、「Microsoft 365 Copilot」及び「生成AIプラットフォーム」（詳細はP.8参照）においては、セキュリティ面での検証を行ったうえで、**機密性Aまでの情報の取扱いを認めています。そのため、機密性の高い情報をプロンプトとして入力することや、個人情報等を含むメールやWeb会議の要約等が可能です。**

一方、庁内環境であっても、デジタルサービス局以外が調達した生成AI環境においては、機密性の高い情報の入力が認められていないことがあります。許可を受けて外部サービスを利用する際は、それぞれの利用ルールに注意してご利用ください。

個人情報等、機密性の高い情報を取り扱う際には、生成物の取扱いについて細心の注意を払ってください。

例えば、利用者の立場では、生成AIによる生成物に個人情報等の機密性の高い情報が含まれている場合は、東京都サイバーセキュリティポリシーに従った適切な取扱いをお願いいたします。

また、生成AIツールを用いてアプリ等の作成を行う際は、回答生成の際の根拠資料として登録したデータに機密性の高い情報が含まれている場合であっても、生成物からは不必要な機密情報を削除又はマスキングして表示するよう設定する必要があります。

## 生成AIが生成した回答の根拠や裏付けを必ず確認

公平性

安全性

アカウントビリティ

生成AIが生成した回答は表現・言い回しが自然であるため、正しいと感じてしまいます。しかし、**最新の情報を反映していなかったり、偏った価値観、アンコンシャスバイアス等が反映されてしまうこともあるなど、必ずしもその内容が「正確」とは限りません。**

Microsoft CopilotやMicrosoft 365 Copilotでは、回答を生成するにあたり参考にしたURLや資料が示されます。参考URLや資料を手がかりに確認することもできますが、示されたURL内の内容や資料が適切かどうかについては保証できません。

また、回答内容の根拠となる参照元のサイトや資料が、自身や世間一般の無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）の影響を受けている可能性には、十分に留意してください。

生成AIを正しく活用するためにも、作成された回答や製作物について、**提示された根拠を鵜呑みにするのではなく、他のサイト等での事実確認や、必要に応じて複数の職員でのチェック等を行うなど十分な倫理面の検証等を行い、内容の妥当性を十分に検討するようにしてください。**



単に他人の既存著作物、作家名、作品の名称を入力するだけの行為は、必ずしも直ちに著作権侵害に該当するとは限りません。ただし、既存著作物に似せるプロンプトを入力するなどして、生成されたデータが既存の著作物と同一・類似している場合<sup>※2</sup>は、当該生成物の利用が当該著作物の著作権侵害になる可能性もあります。

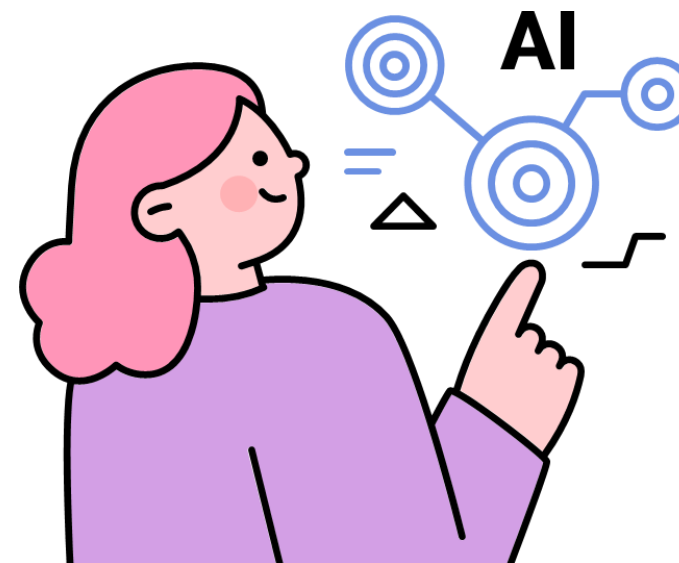
特に**生成物を配信・公開等する場合には、生成物の利用の可否を慎重に判断してください。具体的には、既存の著作物と類似性が無いか、著作権の侵害のおそれが無いか調査し、法的リスクがないことを十分に確認してください。**

一方で、**AI生成物はいくまで中間成果物（アイデア・構成案）として利用し、最終成果物には職員が創作性を持って加筆・修正を行うことで、作成者の著作物として保護される可能性を高めることができます。**

※1 著作権、特許権、個別の契約上の権利関係を含む

※2 「作家〇〇の作品△△に似せて文章を生成してください」とプロンプトに入力する場合や、著作物をそのままプロンプトに入力し、当該著作物に類似した文章を生成させる場合 等

参考 AI と著作権に関する考え方については、文化庁「AIと著作権」等を参考にしてください。



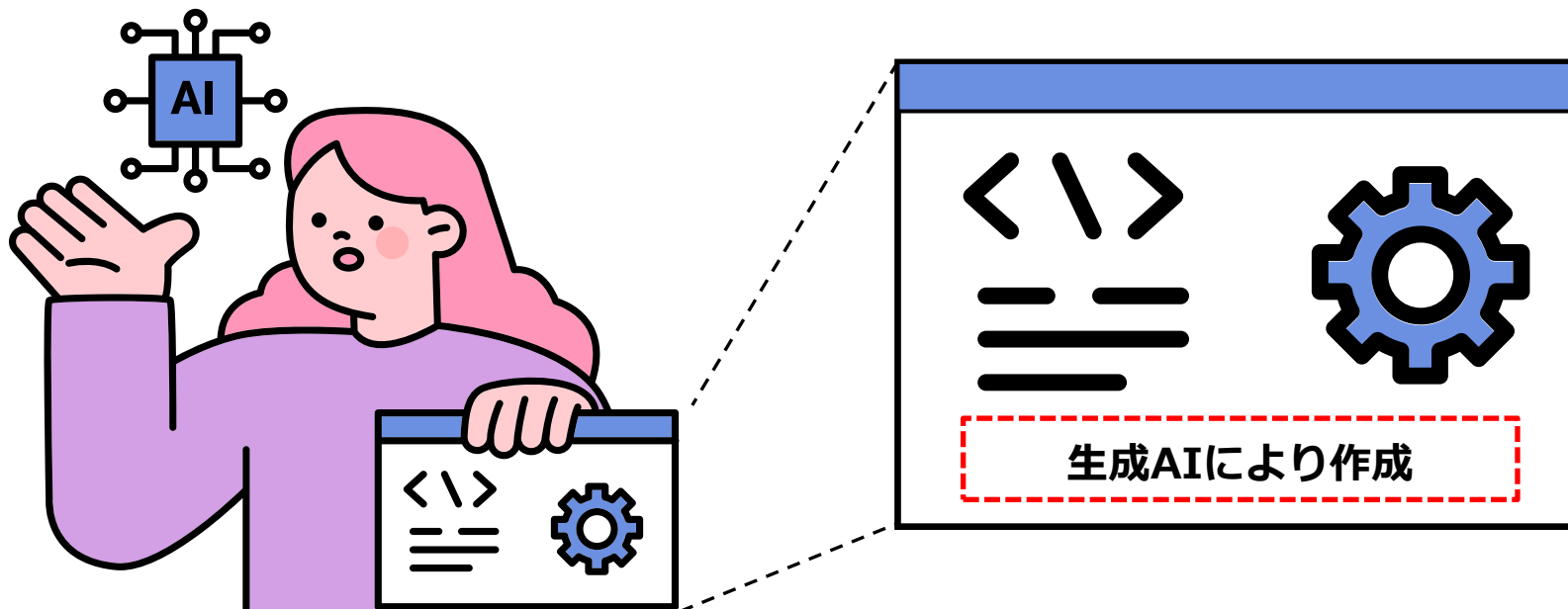
## 生成AIの生成物を対外的に使用する場合は、その旨、明記

著作権

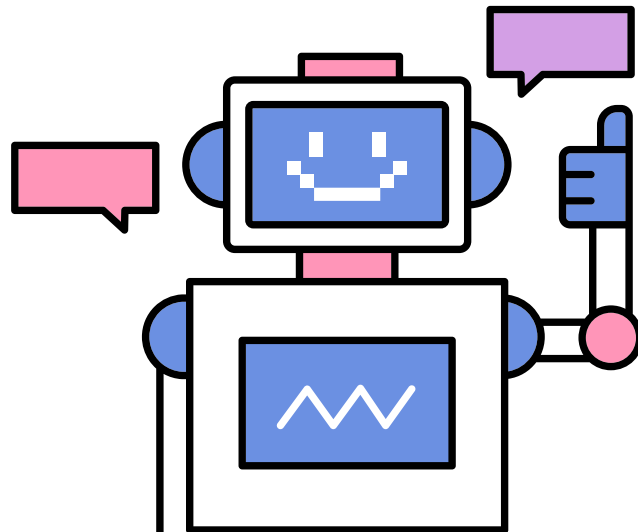
透明性

内容を確認した後、生成AIの回答を対外的に使用する場合は、「生成AIにより作成」等と記載することで、生成物がAIによるものか人間によるものかを読み手に伝えることができます。

また、著作権を侵害しないための措置を行った場合には、可能な範囲でそのプロセスを表示することで、読み手の信頼を得ることができます。



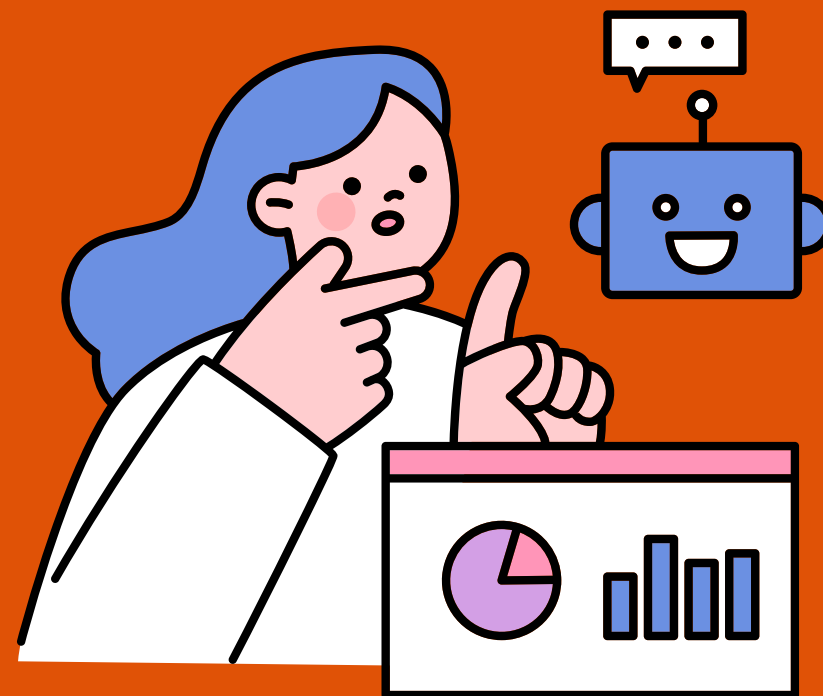
東京都サイバーセキュリティポリシーや  
本紙掲載のチェックポイントを確認し、  
生成AIを安全に活用しましょう！



## 3章 効果的な活用方法

3章では、生成AIに関する効果的な活用方法を紹介します。実際どんな場面で活用できるのか、活用事例や使い方のコツを紹介します。

まずは生成AIの業務利用での可能性を感じてみてください。



# 1 プロンプトのコツ

プロンプトとは、**生成AIから応答を引き出すための指示・命令文**です。

生成AIは、過去の膨大なデータから、次に続く確率の高い言語をパターン出力しています。質の高い回答を導くためには、**質問の前提や内容を具体化することが重要**です。

具体的には、以下のような工夫で、回答の質を高めることができます。

## Step 1

### 必要な情報を整理する

- ① **立場をはっきり**
  - 行政分野や立場、生成AIに与える役割 等
- ② **目的・背景を具体的に指定**
  - 前提条件、課題を整理
- ③ **出力形式を指定**
  - 文字数、英語、箇条書き 等



## Step 2

### 視点を加えて高度な回答を導く

- ④ **プロンプトを重ねて回答をブラッシュアップ**
  - 追加質問や、Step 1 でうまく回答を得られなかった①～③の条件を追加

# プロンプトの工夫例

## 例 1 : 前提情報（行政分野、質問の背景及び専門用語の意味等）を記載する

生成AIからより精度の高い応答を引き出すためには、どのような前提で質問しているか分かりやすく解説した上で指示する必要があります。

<p>プロンプト例</p>	<p>東京都デジタルサービス局の職員として、<b>立場</b></p> <p>都の防災分野におけるDX推進施策案を考えて端的に教えてください。<b>目的</b></p> <p>なお、都では現在、全庁安否確認サービスを導入し職員の安否確認を効率化しています。<b>背景</b></p>
<p>回答</p>	<p>東京都デジタルサービス局の職員という前提で、既存の全庁安否確認サービスを起点に発展させる形で、端的に施策案を整理します。</p> <p><b>都の防災分野におけるDX推進施策案（端的）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>全庁安否確認データの高度活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>安否確認結果をリアルタイムで可視化し、局別・拠点別の参集状況を自動集計。</li> <li>初動対応（参集要請、代替要員配置）を迅速化。</li> </ul> </li> <li><b>災害対応業務ダッシュボードの整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>安否情報、被害情報、気象・地震情報を統合表示。</li> <li>防災関係部局が同一画面で状況把握できる環境を構築。</li> </ul> </li> <li><b>生成AIによる初動対応支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時のマニュアル検索、想定Q&amp;A、過去事例の即時提示。</li> <li>現場職員の判断負荷を軽減。（以下省略）</li> </ul> </li> </ol>

# プロンプトの工夫例

## 例 2 : 回答の際の出力形式（段落構成、章立て、文体、字数等）を指定する

回答の際の出力形式を指定することによって、ユーザー自身が意図したとおりの生成物を得やすくなります。

<p>プロンプト例</p>	<p>生成AIを利用する際のプロンプトの工夫について、以下の章立てで300文字程度でまとめてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①立場をはっきり（行政分野や立場、生成AIに与える役割等）</li> <li>②目的・背景を具体的に指定（前提条件、課題を整理）</li> <li>③出力形式を指定（文字数、英語、箇条書き等）</li> </ul> <p>目的</p> <p>出力形式</p>
<p>回答</p>	<p>①立場をはっきり</p> <p>生成AIを活用する際は、まず自分の立場や役割を明確に示すことが重要です。行政分野での利用であることや、担当業務・想定読者、生成AIに「補助者」「案作成者」などどのような役割を与えるのかを指定することで、業務に即した適切な回答を得やすくなります。</p> <p>②目的・背景を具体的に指定</p> <p>次に、何のために使うのか、背景や前提条件、解決したい課題を具体的に伝えます。利用目的や制約条件を整理して示すことで、生成AIの回答が的外れになることを防ぎ、実務で使える内容に近づきます。</p> <p>③出力形式を指定</p> <p>最後に、文字数、文体、言語、箇条書きの有無など出力形式を指定します。形式を明確にすることで、そのまま資料や文書に活用でき、修正の手間を減らすことができます。</p>

# プロンプトの工夫例

## 例3：登録した回答根拠資料からのみ回答させる

回答根拠資料上に記載が無い情報について質問した場合、回答できない旨を回答させるよう指示を出すことで、生成AIのハルシネーションリスク（もっともらしい嘘をつくりリスク）を減らすことができます。

<p>プロンプト例</p>	<p>(※本書を回答根拠資料として登録した上で以下のプロンプトを入力)  この資料の情報を基に、運転免許の更新方法について教えてください。 ← <b>目的</b>  この資料に記載が無い場合はその旨回答してください。 ← <b>出力形式</b></p>
<p>回答</p>	<p>確認した <b>この資料（生成AI利用の手引き）</b> には、運転免許の更新方法に関する記載はありません。</p> <p>本資料は、東京都職員向けの<b>生成AIの利用環境・利用ルール・活用方法</b>等を整理した内容であり、行政手続（運転免許更新）の手順・要件・窓口案内等は含まれていません</p> <p><b>結論：</b></p> <p>この資料の情報を基に、運転免許の更新方法を説明することはできません（該当記載なし）。</p> <p>必要であれば、<b>公式情報（警視庁・運転免許試験場等）</b>に基づく<b>一般的な更新手続の概要</b>を別途整理します。</p>

## 改定履歴

発行	発行日	改定内容
Version 1.0	令和8年3月30日	初版発行

\*本書は、東京都職員が使用することを前提に作成しております

東京都AI導入・活用ガイドラインに基づく

# 生成AI利用の手引き

Version 1.0

発行：東京都デジタルサービス局

本書はイラスト画像を除き、著作権法の範囲内で、文章の引用・転載等にご自由に利用いただけます。その際は発行元を明記していただくようお願いします。  
なお、この手引きは、将来的な状況に応じて改訂される可能性がありますので、予めご了承ください。